

酪農体験学習活動報告書(別紙フォーマット)

学校名 名古屋市立天室小学校

所在地 456-0062
愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目8番43号

TEL 052-682-6138 FAX 052-681-6495

ホームページ e-mail
http://www.taiho-e.nagoya-c.ed.jp taiho-e@nagoya-c.ed.jp

学校長名 服部政和 担当教諭名 横井克彦

学級数 (14) 児童数 (393名) (計) 教職員数 (28名)

学区や地域の特徴

昭和35年に野立小学区から独立し、開校以来40数年の歴史を持つ。開校当時は、東側に堀川の貯木場、西側は鉄工所などの町工場が多く建ち並ぶ学区であった。平成元年の名古屋デザイン博に合わせ、学区の東側は、国際会議場や公園が整備され、多くの集合住宅が建設される住宅地と変貌してきた。

開校時から学校を見守る学区の目は暖かく、大変協力的である。学区が一体となって子どもたちを守っていく体制ができている。登下校時の見回り活動・青色パトカーによるパトロール活動、老人会による下校ガード活動など、さまざまな面で協力をいただいております、こうした状況の中、子どもたちはすくすく育ってきている。

学校の特徴

「よく考え」「心を合わせ」「力いっぱい」「伸びていこう」を校訓に掲げ、

- ・ものごとをよく考え、正しい判断をし、自ら進んで学習する態度を育成する
- ・あたたかく豊かな心を持ち、人と協力して働く態度を育成する
- ・ねばり強くやりぬく強い意志と強じんな体力を育てる

を教育目標として、子どもたちを育てることを目指している。

平成21年度の全国造形教育全国大会の発表校となり、本年度は、「自分らしい感性を発揮し、心豊かに表現する子の育成」をテーマに、図画工作科の研究実践を進めてきた。11月にはプレ実践として授業公開を行ったところである。来年度の本大会に向けて、全校一丸となった取り組みを進めている。

本校は長年、歯と口の健康にかかわる保健学習にも力を入れており、歯みがきタイムなどの日々の実践や家庭での協力の成果で、むし歯の子どもたちが非常に少ない。そうした活動が認められ、今年度全日本学校歯科保健優良校として栄誉ある文部科学大臣賞の表彰を受けることができた。

また、交通安全指導にも力を入れており、今年度第49回交通安全国民運動中央大会において、交通安全優良学校の表彰を受けることができた。

渡辺牧場酪農体験学習(9月25日)

1 活動計画

名古屋市では、毎年5年生が、岐阜県中津川市にある野外教育センターで2泊3日の野外学習を実施している。中津川では、飯ごう炊さんやキャンプファイヤー、ハイキングなど豊かな自然の中での体験を満喫する。本年度はこうした体験の中に「渡辺牧場」での酪農体験を組み込み、訪問することとした。

2 活動の実際

9月25日、9時に、5年生児童64名が野外教育センターから渡辺牧場に向かって出発した。付知川の景色を楽しみながら1時間弱歩き、到着した。牧場では、渡辺さんや東海酪連の大橋さんをはじめ、多くの酪農関係者の方々に迎えていただいた。すでに、まわりにはたくさんの牛たちがおり、子どもたちは早くも興奮気味であった。

あいさつの後、グループごとに分かれ、牧場の様子を見学した。牛乳を搾る部屋の見学、えさや牛の一生などについての説明、子牛の様子の見学、親牛の見学などを行った。牛乳を搾る部屋では、どのように搾っているのか説明を受けた。搾乳しやすいような機械のシステムに感心していた。牛の様子の見学では、えさを食べたり水を飲んだりする様子を見ることができた。実際に牛にさわることでもでき、その大きさやさわった感触に大いに驚いていた。また、牛に牧草を与えることでもでき、手にした牧草を与えながら牛とのスキンシップを図ることでもできた。



「よろしくお願いします！」

最後に、冷たい牛乳をいただいた。味は格別だったようで、子どもたちはおいしく味わうことができたようだ。



牛乳をしぼる仕組み



牛とのふれあい



おいしい牛乳

3 活動のまとめ

体験した子どもたちは、牛の大きさやえさなどを食べる様子に大いに感動していた。また、牛の乳は全て人間のための牛乳となり、子牛は別の粉ミルクを飲んでいることを聞いてとても驚いていた。酪農の仕事の一端ではあるが、話を聞いたり体験したりすることができた貴重な学習となった。

大宝小学校わくわくモーモースクール(11月28日)

1 活動計画

命の大切さを学ぶ学習はとても重要であり、その必要性も広くいろいろな場面で言われている。そうした中、本物の乳牛を目の前にして、直接触れ合う体験は、命の大切さを学ぶ上でとても意義深い。また、毎日飲んでいる牛乳が、自分たちのもとに届くまでに、酪農家の方々がどのような努力や工夫をされているのかを学ぶことは、周りの人々に感謝する心を育むよい機会となる。

そこで、以下の2点を重点として、11月28日(金)に、全校児童を対象に、「大宝小学校ワクワクモーモースクール」を開催した。

- ① 「搾乳体験」「哺乳体験」等、直接牛に触れたり、バター作りや牛乳をつかったお菓子作りをする体験を通して、生きものや命の大切さを考えることができるようにする。
- ② 酪農家の方々の努力や工夫に気づき、生産に携わる人々に感謝する心を育てる。

2 活動の実際

当日は、以下の表のような日程と活動内容で実施した。東海酪連の方々をはじめ、東海地区乳協、県酪農協、酪農家の方々など40名ほどのスタッフが参加し、活動を行った。また、本校の保護者からも20名程度がアシスタントとして参加し、会の進行にお手伝いをいただいた。

(1) 日程と活動内容

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
8:30	開会式<体育館>					
8:50	プチレアチーズ作り (理科室)	プチレアチーズ作り (家庭科室)	バター作り体験 (体育館)	バター作り体験 (体育館)	牛乳が届くまで (ふれあいホール)	牛乳が届くまで (プレイルーム)
9:35						
9:45	哺乳・聴診体験 (運動場)	写生大会 (運動場)	牛乳が届くまで (ふれあいホール)	牛乳が届くまで (ふれあいホール)	バター作り体験 (体育館)	バター作り体験 (体育館)
10:30						
10:40	写生大会 (運動場)	哺乳・聴診体験 (運動場)	搾乳体験・タッチング (運動場)	写生大会 (運動場)	聴診・タッチング体験 (運動場)	写生大会 (運動場)
11:25			写生大会 (運動場)	搾乳体験・タッチング (運動場)	写生大会 (運動場)	聴診・タッチング体験 (運動場)
12:10	閉会式<体育館>					
12:30						

(2) 開会式

はじめの言葉の後、子どもたちがスタッフの方々と対面した。子どもたちは当日の活動をととても楽しみしており、生き生きとして意欲満々の表情であいさつすることができた。本校職員が扮した着ぐるみの牛も登場し、会場を大いに沸かせた。その後、東海酪連の永井参事より「本物の牛とふれあうなかで、命の大切さを考える機会にしてください」とごあいさつをいただいた。



勢揃いしたスタッフの方々



着ぐるみマスコット登場



永井参事のごあいさつ

(3) 牛乳を使ったお菓子作り

1・2年生が実施した。子どもたちはあらかじめスタッフの方が用意していただいたビニル袋に入った具材(クリームチーズ・ヨーグルト・缶詰のミカン)を、指でもみながら柔らかくしていった。十分にもんで、具材がマヨネーズぐらいの柔らかさになったら、クラッカーの上のせて食べてみた。ヨーグルトの酸味がほどよく、子どもたちも「おいしい!」とって喜んで食べていた。



プチレアチーズ おいしくできました

(4) バター作り

3年生から6年生までがバター作りを実施した。濃厚な生クリームの入った容器を、3人ぐらいずつのグループで交代しながら20分ほど振り続けた。腕が疲れて痛くなるほどがんばり、新鮮なバターができあがった。できあがったバターをクラッカーにのせて食べてみたが、そのおいしさに子どもたちもびっくり。「おいしい!」「家でもつくりたい!」など歓声が響き渡っていた。とても、印象に残る体験ができた。



手が疲れるほど必死に振りました



格別のおいしさです

(5) 哺乳体験

本物の牛との触れ合いでは、1・2年生は子牛にミルクを飲ませる哺乳体験を行った。スタッフの方が作ったミルクを大きめの哺乳ビンに入れ、順番に子牛に飲ませた。子牛に引っ張られないように哺乳ビンをしっかり持っていたが、子どもたちは、ミルクを吸って飲む子牛の力の強さに驚いていた。



子牛の勢いにびっくりしました

(6) 聴診体験

1・2年生と5・6年生が行った。聴診器を耳に当て、子牛の心音を聞いた。どんな音が聞こえるのか最初は戸惑っていたが、ドクドクする心臓の音が聞こえると感動していた。人の心拍数よりかなり速いことに驚き、子牛が一生懸命生きている様子を実感することができたようだった。



生きている音を実感しました

(7) 搾乳体験

予定では3・4年生の活動だったが、時間の都合が付き、6年生も参加することができた。最初に、スタッフの方から搾乳の方法について教えていただき、その後2人ずつ順番に搾乳を行った。子どもたちは、おそるおそる牛の乳を握っていたが、うまい具合に乳が出ると、とても感動し、喜んでいました。握った感触や牛のあたたかさなどを実感し、子どもたちの口からも、「あたたかかった」という感想をたくさん聞くことができた。



上手に搾ることができました

(8) 写生大会

2年生以上が、運動場で思い思いに牛を観察しながら写生を行った。親牛1頭・子牛2頭で、十分余裕をもって観察するのは難しかったが、子どもたちは熱心に牛の様子を見ながらペンをい走らせていた。牛に対する愛情があふれる作品がたくさんできあがった。



近くでよく観察して

(9) 牛乳が届くまで

3年生以上が実施した。酪農家の方々から、各家庭に牛乳が届くまでにどのような工夫や努力をしているかをわかりやすく説明していただいた。

毎日何気なく飲んでいいる牛乳も、口に入るまでにたくさんの工夫や努力があることがよく理解できた様子であった。

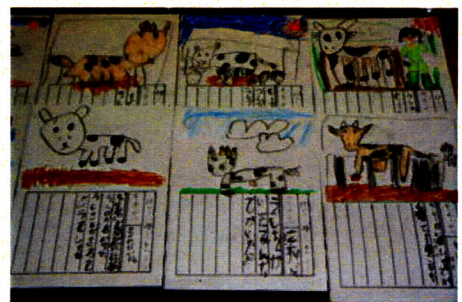


パネルを使ってわかりやすかった

(10) 幼稚園・保育園児を迎えて

本校の近所に、幼稚園・保育園があり、当日はその年の年長の園児たちを招待した。園児たちも初めて間近で見る大きな牛にとってもよるこんでいた。実際に子牛に触れてみて、そのあたたかさを感じたようであった。

また、後日保育園からは、当日の様子をえがいた子どもたちの絵日記を見せていただいた。どの子にも、とても印象に残ったことが伝わってきた。



生き生きとした園児の絵日記

(11) 閉会式

全ての活動が終了し、全員揃って体育館で閉会式が行われた。永井参事からのあいさつのあと、全校児童を代表して児童会長からお礼の言葉を述べ、素晴らしい体験ができた喜びとお礼を伝えることができた。その後、酪農家を代表して伊藤様より「おいしい牛乳をたくさん飲んで、健康な体をつくってください」と励ましの言葉をいただいた。最後に全員でお礼を述べて「わくわくモーモースクール」を閉会した。



酪農家の伊藤さんからのあいさつ

3 活動のまとめ

前日までの打ち合わせや準備など、開催にむけて万全の体制をとりながら進めることができた。当日も早朝から来校していただき、子どもたちの活動を待つだけとなった。前夜までの雨も上がり、暖かく気持ちの良い天気の中で活動を行うことができたのでは何よりよかった。

ほとんどの子どもたちが本物の牛を間近で見たり、肌に触れることが初めてであった。目の前にいる牛の大きさに驚き、牛に触れたときの温かさに感動していた。どの活動にも目をキラキラと輝かせ、生き生きとした活動をするのができ、得るものが大きかったことを物語っている。

たくさんの活動を通して、命のあたたかさを感じ、命のすばらしさや酪農家の方々に感謝することができた体験学習となった。